

2024 年 1 月 23 日(火)

# UTmobI フォーラム開催のご案内



主催：東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構

東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構（UTmobI）は、学内の8部局が連携し、自動運転を中心とした革新的なモビリティ研究を行う研究組織です。柏キャンパスを主なフィールドとして活動し、イノベーションのデザイン・ビッグデータ解析・ヒューマンインタフェース（HMI）の基礎研究を推進し、学の連携・融合によるモビリティ・イノベーションに資する知の体系化と地域社会実装を推進しています。

今年度は、モビリティのカーボンニュートラルに焦点をあて、東京大学以外の方にも講演をして頂きます。

年初でご多忙中とは存じますが、企業・地方公共団体・公設試験研究機関・大学・産業支援機関等の幅広い方々に、奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。

日時	2024 年 1 月 23 日(火) 【受付開始】9:30～ 【フォーラム】10:00～17:10
場所	オンサイトとオンラインのハイブリッド開催 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト 1階多目的ホール 〒277-0871 千葉県柏市若柴 178-4-4 <a href="https://www.satellite.u-tokyo.ac.jp/accessmap/">https://www.satellite.u-tokyo.ac.jp/accessmap/</a>
参加費	無料
資料代	無料 *資料については参加お申込みの方に追ってご連絡いたします。
お申込み	参加ご希望の方は下記 Web ページからお申込みください。 モビリティ・イノベーション連携研究機構ホームページ: <a href="https://utmobi.u-tokyo.ac.jp/">https://utmobi.u-tokyo.ac.jp/</a> ※参加申込締切:2024 年 1 月 16 日(火)

## プログラム

10:00～10:10	開講挨拶
10:10～10:50	須田 義大 東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構長・生産技術研究所 教授 「モビリティ・イノベーションー最近の動向と今後の展望」 ポストコロナやカーボンニュートラルへの対応に加え、2024 年問題をはじめとする社会課題への解決のために、CASE、MaaS として自動運転の実装などモビリティ・イノベーションが求められている。文理融合による総合智での取り組みを試みている UTmobI の活動を中心に、最近の我が国における政府や関連業界での動向、さらに海外の動向を踏まえた今後の展望を紹介する。
10:50～11:30	藤本 博志 東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授 「電気自動車へのワイヤレス走行中給電の研究と公道実証への挑戦」 カーボンニュートラルに向け電気自動車(EV)の普及が拡大しているが、製造時を含めた CO2 排出量を削減する必要があり、小型バッテリーEVの航続距離を飛躍的に伸ばす革新的な技術とし走行中給電技術の実現が期待されている。本講演では日本初となる柏の葉地区での公道実証試験の内容を説明し、経路の数パーセントに給電設備を敷設するだけで、シャトルサービス EV の航続距離を無限大にすることが出来ることを示す。
11:30～13:30	～ 昼休み ～ ワイヤレス走行中給電装置見学 もしくは 自動運転バスの試乗（オンサイト参加者限定）

13:30～14:10	本間 裕大 東京大学生産技術研究所 准教授 「数理最適化モデリングが描き出す低炭素モビリティ・ビジョン」
本講演では、低炭素モビリティの実現に向けて数理最適化手法がどのように貢献できるかを探求する。電力供給インフラとしての充電ステーションおよび走行中ワイヤレス給電の最適配置結果を踏まえながら、複数インフラ形態の考慮がもたらすメリット、さらには車両技術や電力システムと連動した負荷分散の可能性を考察する。	
14:10～14:50	川崎 昭如 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 「カーボンニュートラルを目指す地球温暖化対策に関する国際的動向」
2020年10月、当時の菅内閣の所信表明演説により、日本は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする脱炭素社会の実現を目指すことを宣言した。本発表では、カーボンニュートラルの実現に向けた政策としてのカーボンプライシングや排出権取引を中心に、国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)など最近の国際情勢や議論の動向を踏まえた話題を提供する。	
14:50～15:30	橋本 尚久 産業技術総合研究所 「モビリティサービスの現状と課題 ～自動運転サービスを含めた国内 MaaS の取り組み カーボンニュートラルの視点を入れて～」
MaaS のコンセプトが提唱され、世界各地で実証実験が行われている。日本では、特にモビリティサービスが広義に使われており、各地域の課題や特徴に応じて実装に向けて、特に自治体を中心とした取り組みが行われている。本講演では、それらの取り組みの紹介と関連して取り組んでいる分析について説明する。	
15:30～15:40	休憩
15:40～16:20	松田 智行 日本自動車研究所 「カーボンニュートラルに向けた車載用蓄電池技術」
カーボンニュートラルの達成に向けた最重要技術の一つである蓄電池について、車載用リチウムイオン電池の現状を述べる。さらに、実用化が期待される全固体リチウムイオン電池について車載を想定したシミュレーション技術について紹介する。	
16:20～17:00	坂井 康一 栃木県 県土整備部長 「公共交通における自動運転システムの導入に向けた栃木県の取組」
栃木県では、「人が育ち、地域が活きる、未来に誇れる元気なとちぎ」の実現に向け、地域の実情に応じた公共交通サービスの確保、充実に取り組んでいる。また、公共交通機関の利用拡大はカーボンニュートラルの実現にも寄与するものである。今般、栃木県で取り組んでいる無人自動運転移動サービス導入検証事業について紹介する。	
17:00～17:10	閉講挨拶



ITS R&R 実験フィールド



ワイヤレス走行中給電装置



協調型システム路側器



自動運転バス

## アクセス

- 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト  
1階多目的ホール

駐輪場、駐車場はありません。  
近隣の施設の駐車場等をご利用ください。

